

ごあいさつ

琴の音の冴えざえと響く季節になりました。皆様がたには、ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

さて、第十二回一絃琴演奏会を開催することになりました。本来なら二年前に創立二十五周年記念演奏会をする予定でしたが、コロナ蔓延のため今日になってしまいました。

今回は、横笛奏者の鯉沼廣行氏をお招きしております。鯉沼氏は、月宵の宴「清水美智子演奏会」にもおこし頂きました。（「雅の郷」、平成十三年）

久しぶりに演奏会ができますことを大変うれしく思っております。精いっぱい演奏させていただきます。どうぞごゆるりとおすごし下さいませ。

今後とも変わらぬご指導をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和四年 秋

一絃琴一遙会主宰

清水美智子

特別出演 篠笛

鯉沼 廣行

賛助出演 舞踊

藤間流  
藤間 幹弥

一絃琴

高知県無形文化財保持団体  
正曲一絃琴白鷺会

箏・十七絃

正派邦楽会絃の会

福本 桂子・伊藤 眞由美・糸川 逸子

胡弓

宮城会  
楠原 季余子

尺八

竹寿会  
山本 晶山

篠笛

香川篠笛愛好会

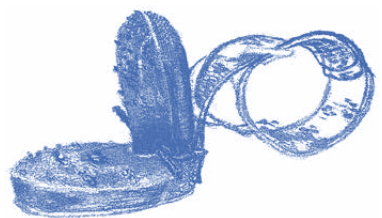
寺石 弘・上原 英毅・詫間 タカエ  
久保 喜久恵

鈴・サヌカイト

松井 康江

音響

ライフ総合舞台



お稽古場

〒760-0011  
高松市浜の町69-43-309  
TEL 090・7786・3821

〒760-0007  
高松市中央町13-25-303 清水美智子(自宅)  
TEL・FAX 087・831・7881  
EMail:michiko0412@384.jp  
Blog <http://ichiyoukai.blog.fc2.com/>

かがわ文化芸術祭2022参加公演・行事



創立二十七周年  
第十二回

一絃琴演奏会

日時 令和四年十月三十日(日) 十三時半開演(十三時開場)  
場所 香川県文化会館三階芸能ホール(高松市番町一丁目十三十九)  
主催 一絃琴一遙会  
入場 無料

助成 (公財)置県百年記念香川県文化芸術振興財団  
後援 高松市 朝日新聞高松総局 産経新聞社高松支局 山陽新聞社 四国新聞社  
毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局 OHK岡山放送 RSK山陽放送  
KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 FM香川

# プログラム

## 一、沙弥の山

詞 柿本人麻呂  
曲 水川寿也

一絃琴 清水美智子  
十三絃 丸尾清蓮  
十七絃 伊藤眞由美  
糸川逸子

増田清房 増田清祐 井手下清洋  
田中貴子

この曲は、坂出市の沙弥島で開催された「万葉茶会」(二〇〇七年)で演奏する為に、水川寿也先生に作曲依頼した曲です。  
玉藻よし讃岐の国は国がらか、見れどもあかぬ神がらか、ここだ貴き...と言えば、柿本人麻呂が讃岐を詠った有名な歌です。この長歌の後の短歌に曲をつけたのが、一絃万葉歌「沙弥の山」です。  
妻もあらば 摘みて食べまし 沙弥の山 野の上のうはぎ 過ぎにけらずや

## 二、須磨幻想 特別出演 篠笛 鯉沼廣行

詞 在原行平

一絃琴 清水美智子  
鈴 松井康江

増田清祐

わくらばに問ふひとあらば須磨の浦に  
藻塩たれつつわぶとこたへよ(在原行平)  
一絃琴の古曲「須磨」に、冬の潮騒や千鳥の擬音を取り入れながら、行平が須磨の浦で一絃琴を創ったと伝えられている汀にイメージーションをふくらませます。

## 三、土佐の海

詞 真鍋豊平  
曲 真鍋豊平

一絃琴 正曲一絃琴白鷺会  
森本和子  
濱田義弘

池上夏代 井上由利子 岡村裕子  
野村雅代

幕末、明治の一絃琴奏者真鍋豊平が、紀貫之「土佐日記」ゆかりの土佐の地を訪ね、昔を偲びつつ広大な土佐の海を詠み曲をつけたものです。

## 四、鴛鴦

琵琶湖周航の歌  
荒城の月

一絃琴 増田清祐  
篠笛 田中貴子  
胡弓 寺石弘  
サヌカイト 楠原季余  
松井康江

井手下清洋 丸尾清蓮 鍋島京子  
磯部富士美 柏木良朗  
上原英毅 詫間夕カエ 久保喜久恵

身も凍るような寒い夜、ふと耳をすますと、鴛鴦が啼いている。  
二羽の鴛鴦は、降り積む霜を払い寒さにふるえながら、身を寄せあつて啼いているのだろうか。

## 〽 休憩 〽

## 五、敦盛最期 特別出演

篠笛 鯉沼廣行  
尺八 山本晶山  
胡弓 楠原季余  
語り 清水美智子

〽一の谷の戦やぶれ討たれし平家の公達あわれ 曉さむき 須磨の嵐に 聞こえしはこれか 青葉の笛  
平家物語のなかで、もつともあわれを誘う「敦盛最期」を、語りと演奏でお聞きいただきます。

## 六、鯉沼廣行 篠笛独奏

あららぎ  
蘭

篠の音取 曲 鯉沼廣行

高千穂神楽で有名な高千穂峡は、清浄な気が満ちそこへ神が舞い降りて舞をまう。神の昇天後はより清浄な空気に溢れている。高千穂には蘭の木が多いことから、蘭の里とも呼ばれています。

一九七八年、日本の横笛のために鯉沼廣行が初めて作曲。「音取り」とは、雅楽で演奏の前に予め楽器の調子を合わせる為に奏される曲のことです。

「笛吹き童子」は、昭和二十八年にNHKのラジオドラマで誕生した、なんとも不思議な魅力をもった曲。  
ハチャラーリハチャリーコ誰が吹くのか 不思議な笛だ。

## 七、舞踊「春の海」

曲 宮城道雄

舞踊 藤間幹弥  
十三絃 福本桂子  
十三絃 伊藤眞由美  
尺八 山本晶山

箏と尺八の合奏曲として、昭和十二年に作曲された宮城道雄の代表曲です。ゆるやかな波の感じで始まり、二部は勇ましい漁船の行き交う様子。  
三部は再びのどかな春の気分にかえります。

## 八、白峯

詞 西行  
曲 崇徳上皇  
水川寿也

一絃琴 清水美智子  
十三絃 丸尾清蓮  
十七絃 糸川逸子  
尺八 山本晶山

増田清房 増田清祐 井手下清洋

かからむのちはなにかはせむ(西行)  
崇徳院の魂が昇天するような旋律で、エンディングへと向かいます。  
なお、この曲は九月二十一日「崇徳天皇八五〇年御忌法要」で奉納演奏させていただきました。

絵 坊城 俊民  
ナレーター 宮宇地美穂  
アシスタント 辻上 心菜